

(^_^) 個人情報保護

個人情報とは、個人に関する情報であって、特定の個人が識別され、又は識別され得るものをいいます。ネットワーク社会では、個人情報がデジタル化され、パソコンなどの情報機器を使い、さまざまな分野で利用されています。

例えば、貯金通帳やキャッシュカードに記録されている情報によって、どこの銀行に行っても貯金残高の確認や預け入れ、引き落としができます。さらに、インターネット上で取引を行うネットバンキングを使えばインターネット上で銀行の窓口と同様のことができる時代に入ってきています。また、クレジットカードを使うと現金を持ち歩かなくてもサインひとつで買い物ができ、1ヶ月間の支払いがまとめて後で請求されます。

このようなシステムはカードと暗証番号や自筆のサインによって、使用者が本人であることを確認し、情報通信ネットワーク網を通してホストコンピュータで情報の処理が行われています。銀行やカード会社は、コンピュータに保存された個人情報を厳重に管理しています。

行政機関においてもさまざまな個人情報が管理されていますが、法令や各自治体が制定する個人情報保護条例等でその収集、利用、提供の制限、適正管理及び本人への開示や本人による訂正、削除の方法などが定められています。

個人情報の保護に関して、現在 30 カ国が加盟している OECD (Organization for Economic Cooperation and Development、経済協力開発機構) がプライバシーを保護するために 8 原則のガイドラインを公表しています。

また、国においても高度情報通信社会の進展に伴い、個人情報の利用が著しく拡大する中で、個人情報の有用性に配慮しつつ、個人の権利利益を保護する目的で、個人情報保護法が平成 15 年 5 月 30 日に施行されました。

個人情報は、この法律のもとで個人の権利や利益の保護を図るため、行政機関や事業者で適正に管理されています。

(T-T) プライバシー侵害

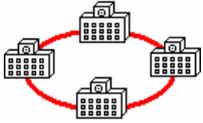
ネットワーク社会では、個人情報を含むさまざまな情報がデジタル化され、きわめて簡単に情報の集約や複製ができるようになっていきます。しかし、便利になった反面、プライバシー侵害や権利侵害などの問題も起こっています。

電話が各家庭に普及してきた頃には、いたずら電話が問題になりました。電話の相手からわからないという匿名性によって、生じた問題です。自分の電話番号を変えざるを得なかった、電話帳には自分の電話番号を載せられないなどということが起こりました。現在では、インターネットが普及し、多くの人が電子メールを利用するようになり、同じようなことが起こっています。

Web ページ上の簡単なアンケートに軽い気持ちで答えても、その年齢、趣味、家族構成や嗜好などの情報が、個人のプロフィールとして管理され、企業の収益を上げることもあります。例えば、年齢や趣味に基づいて新製品の案内を出すことなどが可能になるからです。このような情報提供サービスを本人の希望に基づいて行うことを明示した Web ページも多くみられますが、個人情報が何かの原因で漏洩し、インターネット上で公開されれば、深刻なプライバシー侵害になります。

情報がデジタル化され複製や編集が容易になったため、個人の情報が本人の知らないところで使われる、別の目的で提供した情報が本人の予期しない形で利用される、本人の知らないところで個人情報が改ざんされるというようなことが起こり得ます。

インターネットやデジタル化された情報の特性を理解して、自分自身と他人のプライバシーを守るために、個人情報の扱いに十分配慮することが大切です。



自己の個人情報の適切な管理

大阪府個人情報保護条例の第4条では府民の責務として、「府民は、個人情報の保護の重要性を認識し、自己の個人情報の適切な管理に努めるとともに、他人の個人情報の取扱いに当たっては、他人の権利利益を侵害することのないよう努めなければならない。」とされています。学校情報ネットワークでは Web ページを作成して府立高校だけに公開したり、インターネット上で世界に向けて公開したりすることができます。また、電子メールも利用可能です。

インターネットを利用する次のような場合は、教職員や生徒一人ひとりが個人情報の適切な管理に努める必要があります。

(1) アンケートの回答の入力

Web ページ上でアンケート調査や懸賞募集というものがありますが、アンケートや懸賞とは関係なく相手が個人情報の収集が目的で行われているものもあります。懸賞やプレゼントの送り先として記入したアドレスなどの個人情報がコンピュータに効率よく蓄積されてしまいます。

アンケートによって収集した情報の使用目的を明示し、転用しないことや責任の所在をはっきりさせている Web ページもありますので、信頼できるサイトであるかどうかを判断するとともに、個人情報を安易に記入しないことが大切です。

(2) メールアドレスや住所、電話番号の入力

インターネットの世界は誰でもが公平にアクセスできる場所です。悪意を持った人に個人情報を利用して迷惑をかけられたり、被害者になったり、犯罪に巻き込まれたりする場合があります。場合によっては限りません。

電子掲示板やチャットに個人情報を書き込む場合には不特定多数の人に公開されていることを常に忘れないようにしなければなりません。また、他人の個人情報を本人の同意なしでインターネット上に流すことは、他人の権利利益を侵害するものであり、許されないことです。

学校情報ネットワーク上で取り扱える個人情報について

第4条 学情ネットを利用して児童生徒の個人情報を発信する場合には、本人（成人に達しない児童生徒の場合は保護者を含む。）の同意に基づき、教職員の指導のもとに情報を作成し、校長の決裁を経て発信するものとする。教職員等の個人情報については本人の同意に基づき、校長の決裁を経て発信するものとする。

2 学情ネットで発信する児童生徒及び教職員等の個人情報の範囲は、次の各号に定めるところによる。

(1) 児童生徒及び教職員等の写真及び氏名（児童生徒の写真については教育活動の様子を伝える内容のものとし、氏名との同時掲載はしない。）

(2) コンピュータソフトウェア、文芸、音楽、美術、工芸及び書道等の作品及びその説明並びに作者の氏名

(3) 課題研究のレポート又は論文等の学習成果物及びその説明並びに作者の氏名

(4) 部活動、スポーツ競技及び各種コンクール等の参加記録及び氏名

(5) 研修等で招聘した講師等の講演内容、氏名及び氏名

3 学情ネットを利用した府立学校の情報発信は、府立学校の名称を使用し、大阪府教育センターに設置するサーバにおいて行うものとする。

Q . OECD 8 原則とは何ですか。

A . OECD が 1980 年に情報の自由な流通の確保とプライバシーの保護への配慮との調和を図ろうとする観点から、「プライバシー保護と個人データの国際流通についてのガイドライン」の第2部「国内適用における基本原則」で示した次の8原則のことです。

- (1) 収集制限の原則
- (2) データ内容の原則
- (3) 目的明確化の原則
- (4) 利用制限の原則
- (5) 安全保護の原則
- (6) 公開の原則
- (7) 個人参加の原則
- (8) 責任の原則



個人情報の保護

- 1 本時の位置 Web ページの閲覧ができるようになったのちのできるだけ早い時期に行う。
- 2 指導目標 個人情報について理解させ、インターネットなどの情報通信ネットワーク上での個人情報の適切な取扱い方を習得させる。
- 3 目標行動 自己の個人情報を適切に管理するとともに、他人の個人情報の取扱いに当たっては、他人の権利利益を侵害することがないように行動できる。
- 4 留意点 情報モラルの育成の観点から、次の事項を理解させる。
 - ・ 個人情報
 - ・ なりすまし
 - ・ プライバシー侵害
- 5 準備 個人情報を入力する Web ページの URL を調べる。家や学校に来るダイレクトメールを用意する。

6 展開

	学習内容	学習活動	留意事項	評価規準
導入	ダイレクトメール	ダイレクトメールがどのようにして届いたかを考える。	どのようにして相手先の住所や氏名を調べたかを考えさせる。ここでは答えをだす必要はない。	
展開	個人情報の発信	アンケートや懸賞応募の Web ページの URL を入力し、その Web ページからどのような項目の入力を行うかについて調べる。 アンケートや懸賞応募に必要な情報と必ずしも必要でない情報を分類し、問題となりそうな事柄について話し合う。	個人情報とは、「個人に関する情報であって、特定の個人が識別できる情報」であることを説明する。 年齢や性別が応募に必要なかどうかを生徒に考えさせる。	何が個人情報とかを説明できるか。 アンケートや懸賞応募などが個人情報の発信に当たる場合があることを説明できるか。

展 開	個人情報の収集	<p>Web ページを使って、情報を集めるためにどのような工夫がされているかを調べる。</p> <p>その他の方法について考える。</p>	<p>情報を集める側から考えさせる。</p> <p>情報を集める工夫に費やす時間とコストも考えさせる。</p>	<p>情報の発信側と受信側のそれぞれに関してインターネットの特長を利用した情報受発信の方法について説明できるか。</p>
	個人情報の流れ	<p>発信した情報が、どのようなルートを通り、どのように利用されるかを考える。</p>	<p>どのように利用されているかを考えさせることにとどめる。</p>	<p>情報は利用する側によって、その意味や価値が異なることを説明できるか。</p>
	個人情報の修正	<p>発信情報に誤りがあった場合、どのようにして修正するかを考える。</p>	<p>修正されているかどうかの確認の方法についても考えさせる。</p>	<p>個人情報の本人による訂正、削除が必要な理由を説明できるか。</p>
	プライバシー侵害	<p>収集された個人情報本人の同意なしに公開された場合について考える。</p>	<p>自分自身のプライバシー侵害や他人の個人情報の発信、なりすましによる発信などの不適切な個人情報の取扱い方について考えさせる。</p>	<p>個人情報の漏洩などが社会に与える影響について説明できるか。</p>
まとめ	まとめ	<p>自己の個人情報の管理について考える。</p>	<p>インターネット上で第三者に情報を盗聴されないよう暗号化して発信する SSL などの技術についても触れる。</p>	<p>インターネット上で個人情報を扱う際に注意すべき点を説明できるか。</p>

